



埋立部	栈橋部
接続部	連誘部
環境	その他
工種名： UFC床版製作工	

あけましておめでとうございます。

2010年初の現場日記は、UFC床版の製作について紹介します。(床版:栈橋部の床に当たる部材のこと)

「UFC」(Ultra High Strength Fiber Reinforced Concrete)を日本語にすると「^{ちょうこうきょうどせんいほきょう}超高強度繊維補強コンクリート」名前の通り、「鋼繊維が混ぜ込まれた」「高い強度を持つ」コンクリートのことなんです。UFCには、高い強度を持つ他に、「軽量」「高い耐久性」などの利点があり、D滑走路の工事において、栈橋部の着陸帯(上図の赤で塗ったところ)に使われています。今回は、千葉県富津にある製作工場から、羽田の現場までを追ってみました。



①これがUFCに混ぜ込まれる鋼繊維です。繊維一本の長さが15mmと22mm、直径が0.2mm程度。繊維とは言っても、ふわふわしたものではなく、チクチクと指にささるような感触です。



②セメント、砂、水、混和剤(コンクリートに入れる薬剤)と、鋼繊維を混ぜたものです。



③どろどろの状態のUFCを、引張った鋼線を配置した型枠に流し込みます。その後、UFC床版は養生という、温度、水分管理のプロセスを経て固まっていきます。



④養生を終えて、床版のかたちが見えてきました。この後、床版の側面をコーティングしてUFC床版が完成します。



⑤工場で製作されたUFC床版は、羽田の現場まで船で運搬され、設置されます。写真の床版の寸法は、およそ縦8m、横3.5mです。



⑥設置されたUFC床版です。床版と床版の間は、コンクリートで埋められ、その上に、防水剤が塗布されます。

これほど長い旅を経て、一枚の床版が設置されることに驚くばかりです。